

鉄骨造 耐震改修時の読み合わせ用資料について

読み合わせ用資料として下記の資料を提出してください。

なお、資料を提出の際には、**片面印刷のうえ、クリップ止め**としてください。

(両面印刷やホッチキス止め、穴あけ紐止めでの提出はやめてください。)

- ・ §3 建築物及び耐震診断結果概要

- 3.1 建築物概要及び構造概要

- 3.2 耐震診断概要

- 3.3 耐震診断結果

- 3.4 耐震改修建築物概要及び構造概要

- 3.5 耐震改修概要

- 3.6 耐震改修結果

- 3.7 配置図

- 3.8 意匠図(改修前後の平面図・立面図)

- 3.9 構造図(改修前後の伏図・軸組図 改修詳細図)

- 3.10 破壊形式図

- ・ 質疑回答書(委員会、小委員会)

報告書の §1 と同じ内容ものを添付してください。

次ページからの参考例に注意事項等を示していますので、確認して提出してください。

参考例は、上記の要領でまとめていますが、§3の内容を下記要領で、タイトル等を整理しても問題ありませんが、**意匠図、構造図の順番**は守ってください。

§3 建築物及び耐震診断結果概要

- 3.1 現況の建築物及び耐震診断結果概要

- 3.1.1 建築物概要及び構造概要

- 3.1.2 耐震診断概要

- 3.1.3 耐震診断結果

- 3.2 改修後の建築物及び耐震診断結果概要

- 3.2.1 耐震改修建築物概要及び構造概要

- 3.2.2 耐震改修概要

- 3.2.3 耐震改修結果

- 3.3 配置図

- 3.4 意匠図

- 3.4.1 改修前の平面図・立面図

- 3.4.2 改修後の平面図・立面図

- 3.5 構造図

- 3.5.1 改修前の伏図・軸組図

- 3.5.2 改修後の伏図・軸組図・詳細図

- 3.6 破壊形式図

報告書の §1 と同じ内容ものを添付してください。

「3.4意匠図」は改修前後の平面図と立面図が、「3.5構造図」は改修前後の伏図と軸組図、改修後の詳細図が添付されていればまとめ方は問いません。ただし、**意匠図、構造図の順番**は守ってください。

※評価書には建築物概要及び耐震診断結果概要、配置図、意匠図(改修前後の平面図、立面図)が添付されます。

※報告書の § 1 を § 3 に変えてください。

§ 3 建築物及び耐震診断結果概要

3.1 建築物概要及び構造概要

(診断：〇〇評価委員会の評価番号〇〇〇より)

注意事項には をしています。

発注者		〇〇〇			
耐震診断	診断者	〇〇〇		※報告書は発注者の承認を得ていることなどを記述する。	
	診断者住所	〇〇〇			
	診断年	平成〇〇年〇〇月			
	診断評価番号	HA〇 34-00-0000			
診断建物名称		〇〇〇			
診断建物所在地		〇〇〇			
診断建物設計者		〇〇〇			
診断建物施工者		〇〇〇			
診断建物規模		地上	〇	階	建築物の特徴 ※下記の項目などを記述する。 ・建築物の軸線
		地下	〇	階	
		塔屋	〇	階	
診断建物竣工年		昭和〇〇年 (経過年数)		・増築・改修の有無	
主要用途		〇〇〇		・増築・改修の時期	
主要仕上		外壁	〇〇〇		・外壁、屋根、間仕切りの仕上げを記載
		屋根	〇〇〇		
		間仕切	〇〇〇		
建物形状	平面形	〇〇〇		・床面積の内訳	
	立面形	〇〇〇			
建物面積	建築面積	〇	m ²		
	延べ面積	〇	m ²		
		〇	階	〇	m ²
建物高さ	軒高さ	〇	m		
	〇	階	〇	m	
建物長さ	X方向	〇	m		
	Y方向	〇	m		
隣接建物 避難階段等		〇〇〇		・隣接建物 ・EXP. Jの間隔、高さ比 ・避難階段・滑り台の有無、接合方法 ・その他重要事項	

改修の場合忘れずに記入してください。

(診断：評価番号〇〇〇より)

構造概要 *耐震診断	構造種別		〇〇〇		構造の特徴
	架構形式	X方向	〇〇〇		※下記の項目などを記述する。 ・架構形式
		Y方向	〇〇〇		
	スパン数	X方向	0	スパン	
		Y方向	0	スパン	
	スパン長	X方向	0	m(代表スパン)	
		Y方向	0	m(代表スパン)	
	柱の断面種別		H形鋼		・断面種別、日の字柱等を記載
	柱脚形式		露出柱脚		・露出、根巻き、埋込等の形式を記載
	接合・継手形式		柱-柱接合(溶接接合、ボルト接合)		
			柱-梁接合(溶接接合)		
			梁-梁接合(高力ボルト接合)		
	筋かいの有無及び断面種別		筋かい有、連層有(山形鋼)		・筋かいの有無(連層の有無)、断面種別
	屋根架構		筋かい、大スパン架構		・筋かい、トラス架構、大スパン架構等
	床架構		RCスラブ(接合筋有)		・筋かい、合成床、RCスラブ等
持出し部材	X方向	〇〇〇			
	Y方向	〇〇〇			
層重量	0 階	0	kN		
単位重量	0 階	0	kN/m ²		
基礎地盤	基礎形式		〇〇〇		
	長期支持力		〇〇〇		
	支持層		〇〇〇		
	支持深さ		〇〇〇		
	地盤種別		〇〇〇		
	敷地状況		〇〇〇		
その他		〇〇〇		・その他重要事項	

(診断：評価番号〇〇〇より)

使用材料・強度*耐震診断	既存コンクリート	強度	設計基準強度 <u>0</u> N/mm ² 推定強度 診断強度	材料の特徴 ※下記の項目などを記述する。 <hr/> ・コンクリート強度、中性化の内訳
		基礎	<u>0</u> N/mm ²	
		中性化	基準値 <u>0</u> mm	
			測定値の最大値 <u>0</u> mm 中性化深さ <u>0</u> mm	
	既存鉄筋	主筋	材質 降伏点強度 <u>SR24</u> <u>258</u> N/mm ²	・JIS規格品 1.1倍割増降伏点強度
		あばら筋	<u>SR24</u> <u>258</u> N/mm ²	
		その他	<u>SR24</u> <u>258</u> N/mm ²	
	既存鉄骨	柱 梁 筋かい	材質 降伏点強度 <u>SS41</u> <u>258</u> N/mm ²	・JIS規格品 1.1倍割増降伏点強度
			<u>SS41</u> <u>258</u> N/mm ²	
			<u>SS41</u> <u>258</u> N/mm ²	
アンカーボルト 接合ボルト		材質 引張強度 <u>SS41</u> <u>400</u> N/mm ² <u>HTB F10T</u> <u>1000</u> N/mm ²	・引張強度	
その他	<u>〇〇〇</u>	・その他重要事項		

3.2 耐震診断概要

(診断：評価番号〇〇〇より)

現地調査＊耐震診断	設計図書の有無	<u>有</u>	特記事項	
	被災履歴	<u>有（平成13年芸予地震）</u>	・調査方法、箇所について発注者と協議	
	図書の照合	<u>不整合箇所有り</u> <u>（ブレース位置が設計図書と不整合）</u>	・CAD化した図面の発注者の承認 ・既存図の添付（矩計、断面詳細、	
	部材	柱	<u>調査有（目視、寸法測定）</u>	<u>鉄骨詳細図等）</u>
		梁	<u>調査有（目視、寸法測定）</u>	<u>既存図の添付は参考でも可</u>
		筋かい	<u>調査有（目視、寸法測定）</u>	・調査結果は実態調査用紙に記入する
	接合部	ボルト接合	<u>調査有（高力ボルト：目視）</u>	
		隅肉溶接	<u>調査有（目視、寸法測定）</u>	・隅肉サイズ、のど厚、長さの調査は必須
		ダイアフラム	<u>調査有（目視、寸法測定、超音波探傷）</u>	・突合せ部の超音波探傷試験は必須
	柱脚	<u>調査有（目視、寸法測定、超音波探傷）</u>		
	部材の傾斜、座屈	<u>調査有（目視）</u>		
	鉄骨さび、腐食	<u>調査有（目視）</u>		
	基礎状況	<u>調査無</u>		
	ひび割れ劣化	<u>調査有（目視）</u>		
	不同沈下	<u>調査有（目視）</u>		
コンクリートブロック	<u>無</u>			
非構造部材	<u>評価対象外（別途検討）</u>	・非構造部材の取り扱い		
その他	<u>〇〇〇</u>			

(診断：評価番号〇〇〇より)

モデル化および計算手法*耐震診断	保有水平耐力	節点振分け法	<u>有 (接合部破断は無し)</u>	特記事項 ※下記の項目などを記述する。 ・保有水平耐力算定の採用の有無 ・接合部破断の有無
		仮想仕事法	<u>無</u>	
		荷重増分法	<u>無</u>	
		弾性解析	<u>無</u>	
	解析用外力分布	<u>Ai分布</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・水平剛性の評価 (建物全体又はゾーンング) ・実態調査結果の反映方法 ・接合部調査、超音波探傷結果の反映方法 ・大スパン架構の有無、鉛直震動の検討等 ・略算法又は精算法 ・不整形架構の有無、Fesの方針等 ・ピン、固定、弾性バネ等 ・使用プログラム、バージョン 	
	全体・ゾーンング	<u>ゾーンング</u>		
	部材の耐力評価	<u>設計図書とおりで耐力を評価</u>		
	接合部の耐力評価	<u>突合せ溶接部に欠陥有り、接合部耐力を低減</u>		
	大スパン架構	<u>大スパン架構有、鉛直震動の検討有</u>		
	水平面の荷重伝達	<u>略算法</u>		
不整形架構	<u>不整形架構有、Fesはゾーン毎</u>			
支点モデル	<u>弾性バネ</u>			
使用プログラム	<u>〇〇〇</u>			

3.3 耐震診断結果

(診断：評価番号〇〇〇より)

耐震診断基準	※診断基準は、採用した主たる基準を記述し、準拠した基準も列記する。			
耐震診断次数	精密診断		※発注者と協議を記述する。	
耐震診断諸数値	地域係数：Z = <u>0.9</u> 用途係数：U = <u>1.0</u> 地盤指標：G = <u>1.0</u> 振動特性係数：R _t = <u>1.0</u> 剛性率・偏心率の係数：F _{es} = <u>1.00</u> 層のD _s 値：S _T = <u>0.25</u>		※発注者と協議を記述する。 ・地盤指標を採用する場合はGの値を記載	
	鉄骨造：I _s = E _o / (F _{es} · Z · R _t · U · G)			
	鉄骨造：E _o = Q _u · F / (ΣW _i · A _i)			
	鉄骨造：q = Q _u / (S _T · F _{es} · ΣW _i · Z · R _t · A _i · U · G)			
耐震診断判定指標	I _{so} = <u>0</u>	q ≥ <u>0</u>	※発注者と協議を記述する。	
耐震診断結果	X方向		考察	
	階	I _s 値	q値	判定
	1階	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>〇〇〇</u>
	Y方向		※下記の項目などを記述する。 ・ゾーニング ・接合部破断	
	階	I _s 値	q値	判定
	1階	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>〇〇〇</u>
	特記事項 ※下記の項目などを記述する。 ・鉄骨接合部 ・地盤 ・コンクリートブロック、特定天井、非構造部材 ・エキスパンションジョイント ・隣接建物 ・大スパン ・持出し梁 ・詳細な調査の必要性 ・改修の必要性 ・補修の必要性 ・その他重要事項			

X方向										
	階	ΣW (kN)	A_i	Q_u (kN)	F_i	E_o	F_{es}	I_s	q	破壊形式
→	正 加 力									
	1階	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇,〇〇
←	負 加 力									
	1階	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇,〇〇
Y方向										
	階	ΣW (kN)	A_i	Q_u (kN)	F_i	E_o	F_{es}	I_s	q	破壊形式
→	正 加 力									
	1階	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇,〇〇
←	負 加 力									
	1階	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇,〇〇
									$U=$	0
									$R_T=$	0
									$G=$	0
									$Z=$	0
特記事項										
※決定した方向などを記述する。										
※その他重要事項										
判定基準は以下とする										
(1) I_s が0.3未満又は q が0.5未満・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が高い。										
(2) (1)、(3)以外・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性がある。										
(3) I_s が I_{so} 以上かつ q が目標値以上・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が低い。										
ゾーニングで検討を行っている場合はゾーニング図を添付してください。										

3.4 耐震改修建築物概要及び構造概要

(改修)

発注者		〇〇〇			
耐震改修	改修診断者	〇〇〇		※診断評価取得状況などを記述する。 ※改修報告書は発注者の承認を得ていることなどを記述する。	
	改修診断者住所	〇〇〇			
	改修診断年	平成〇〇年〇〇月			
	改修評価番号	HA〇 34-00-0000			
診断建物名称		〇〇〇			
診断建物所在地		〇〇〇			
診断建物設計者		〇〇〇			
診断建物施工者		〇〇〇			
診断建物規模		地上 〇 階 地下 〇 階 塔屋 〇 階		建築物の特徴 ※診断評価取得後の経緯などを記述する。 ※診断評価取得後の隣接建物の状況などを記述する。	
診断建物竣工年		昭和〇〇年			
主要用途		〇〇〇		※その他重要事項	
主要仕上		外壁 〇〇〇 屋根 〇〇〇 間仕切 〇〇〇			
建築物概要 *耐震改修	建物形状	平面形	〇〇〇		
		立面形	〇〇〇		
	建物面積	建築面積	〇	m ²	
		延べ面積	〇	m ²	
		〇 階	〇	m ²	
	建物高さ	軒高さ	〇	m	
		〇 階	〇	m	
	建物長さ	X方向	〇	m	
		Y方向	〇	m	
	隣接建物		〇〇〇		

構造概要 *耐震改修	構造種別	<u>〇〇〇</u>		構造の特徴	
	架構形式	X方向	<u>〇〇〇</u>		※診断評価取得後の変更など記述する。 ※発注者との協議事項など記述する。
		Y方向	<u>〇〇〇</u>		
	スパン数	X方向	<u>0</u>	スパン	※診断評価取得後の隣接建物の状況など記述する。
		Y方向	<u>0</u>	スパン	
	スパン長	X方向	<u>0</u>	m(代表スパン)	※改修箇所、方法などを記述する。 ※その他重要事項
		Y方向	<u>0</u>	m(代表スパン)	
	柱の断面種別	<u>H形鋼</u>			
	柱脚形式	<u>露出柱脚</u>			
	接合・継手形式	<u>柱-柱接合(溶接接合、ボルト接合)</u>			
		<u>柱-梁接合(溶接接合)</u>			
		<u>梁-梁接合(高力ボルト接合)</u>			
	筋かいの有無及び断面種別	<u>筋かい有、連層有(山形鋼)</u>			
	屋根架構	<u>筋かい、大スパン架構</u>			
	床架構	<u>RCスラブ(接合筋有)</u>			
	持出し部材	X方向	<u>〇〇〇</u>		
		Y方向	<u>〇〇〇</u>		
	層重量	<u>0</u> 階	<u>0</u>	kN	
	単位重量	<u>0</u> 階	<u>0</u>	kN/m ²	
	基礎地盤	基礎形式	<u>〇〇〇</u>		
長期支持力		<u>〇〇〇</u>			
支持層		<u>〇〇〇</u>			
支持深さ		<u>〇〇〇</u>			
地盤種別		<u>〇〇〇</u>			
敷地状況		<u>〇〇〇</u>			
改修箇所及び方法	<u>〇〇〇</u>				

使用材料・強度*耐震改修	既存コンクリート	強度	設計基準強度	<u>0</u> N/mm ²	材料の特徴 ※診断評価取得後の変更など記述する。 ※その他重要事項
			推定強度	診断強度	
		基礎	<u>0</u> N/mm ²	<u>0</u> N/mm ²	
		中性化	基準値	<u>0</u> mm	
			測定値の最大値	<u>0</u> mm	
			中性化深さ	<u>0</u> mm	
	既存鉄筋	主筋	材質	降伏点強度	
		あばら筋	SR24	<u>258</u> N/mm ²	
		その他	SR24	<u>258</u> N/mm ²	
	既存鉄骨	柱 梁 筋かい	材質	降伏点強度	
			SS41	<u>258</u> N/mm ²	
			SS41	<u>258</u> N/mm ²	
		アンカーボルト 接合ボルト	材質	引張強度	
		SS41	<u>400</u> N/mm ²		
		HTB F10T	<u>1000</u> N/mm ²		
改修コンクリート	<u>000</u>	設計基準強度	<u>0</u> N/mm ²		
改修鉄筋	主筋 その他	材質	降伏点強度	・ JIS規格品 降伏点強度	
		SD345	<u>345</u> N/mm ²		
		SD295A	<u>295</u> N/mm ²		
改修鉄骨	鉄骨	材質	降伏点強度	・ JIS規格品 降伏点強度	
		SS400	<u>258</u> N/mm ²		
	ボルト	材質	引張強度	・ JIS規格品 引張強度	
	S10T	<u>1000</u> N/mm ²			
000	000	<u>000</u>	<u>0</u> N/mm ²		
	000	<u>000</u>	<u>0</u> N/mm ²		
その他		<u>000</u>			

3.5 耐震改修概要

(改修)

追加現地調査*耐震改修	設計図書の有無	<u>有</u>	特記事項	
	被災履歴	<u>有 (平成13年芸予地震)</u>	<u>※発注者との協議事項など記述する。</u>	
	図書の照合	<u>不整合箇所有り</u> <u>(ブレース位置が設計図書と不整合)</u>	<u>※診断評価取得後の追加調査などを記述する。</u>	
	部材	柱	<u>調査有 (目視、寸法測定)</u>	<u>※その他重要事項</u>
		梁	<u>調査有 (目視、寸法測定)</u>	
		筋かい	<u>調査有 (目視、寸法測定)</u>	
	接合部	ボルト接合	<u>調査有 (高力ボルト：目視)</u>	<u>※改修時の柱脚調査は必須</u>
		隅肉溶接	<u>調査有 (目視、寸法測定)</u>	
		ダイアフラム	<u>調査有 (目視、寸法測定、超音波探傷)</u>	
	柱脚	<u>調査有 (目視、寸法測定、超音波探傷)</u>		
	部材の傾斜、座屈	<u>調査有 (目視)</u>		
	鉄骨さび、腐食	<u>調査有 (目視)</u>		
	基礎状況	<u>調査無</u>		
	ひび割れ劣化	<u>調査有 (目視)</u>		
	不同沈下	<u>調査有 (目視)</u>		
	コンクリートブロック	<u>無</u>		
非構造部材	<u>評価対象外 (別途検討)</u>			
その他	<u>〇〇〇</u>			

保 有 水 平 耐 力	節点振分け法	<u>有 (接合部破断は無し)</u>	特記事項 ※診断評価取得後の変更など記述する。 ※その他重要事項
	仮想仕事法	無	
	荷重増分法	無	
	弾性解析	無	
	解析用外力分布	<u>△i分布</u>	
	全体・ゾーニング	<u>ゾーニング</u>	
	部材の耐力評価	<u>設計図書とおりで耐力を評価</u>	
	接合部の耐力評価	<u>突合せ溶接部に欠陥有り、接合部耐力を低減</u>	
	大スパン架構	<u>大スパン架構有、鉛直震動の検討有</u>	
	水平面の荷重伝達	<u>略算法</u>	
モ デ ル 化 お よ び 計 算 手 法 * 耐 震 改 修	不整形架構	<u>不整形架構有、Fesはゾーン毎</u>	
	支点モデル	<u>弾性バネ</u>	
	使用プログラム	<u>〇〇〇</u>	
	その他		

3.6 耐震改修結果

(改修)

耐震改修診断基準	※診断基準は、採用した主たる基準を記述し、準拠した基準も列記する。			
耐震診断次数	精密診断		※発注者と協議を記述する。	
	地域係数：Z = <u>0.9</u> 用途係数：U = <u>1.0</u> 地盤指標：G = <u>1.0</u> 振動特性係数：R _t = <u>1.0</u> 剛性率・偏心率の係数：F _{es} = <u>1.00</u> 層のDs値：S _T = <u>0.25</u>		※発注者と協議を記述する。 ・地盤指標を採用する場合はGの値を記載	
	鉄骨造：I _s = E _o / (F _{es} · Z · R _t · U · G) 鉄骨造：E _o = Q _u · F / (ΣW _i · A _i) 鉄骨造：q = Q _u / (S _T · F _{es} · ΣW _i · Z · R _t · A _i · U · G)			
耐震改修判定指標	I _{so} = <u>0</u>		q ≥ <u>0</u>	
	X方向		考察	
	階	I _s 値	q値	判定
	1階	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>○○○</u>
	Y方向		※下記の項目などを記述する。 ・ゾーニング ・判定結果考察	
	階	I _s 値	q値	判定
	1階	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>○○○</u>
耐震改修結果	特記事項 ※下記の項目などを記述する。 ・コンクリートブロック、特定天井、非構造部材 ・エキスパンションジョイント ・その他重要事項			

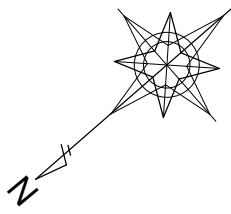
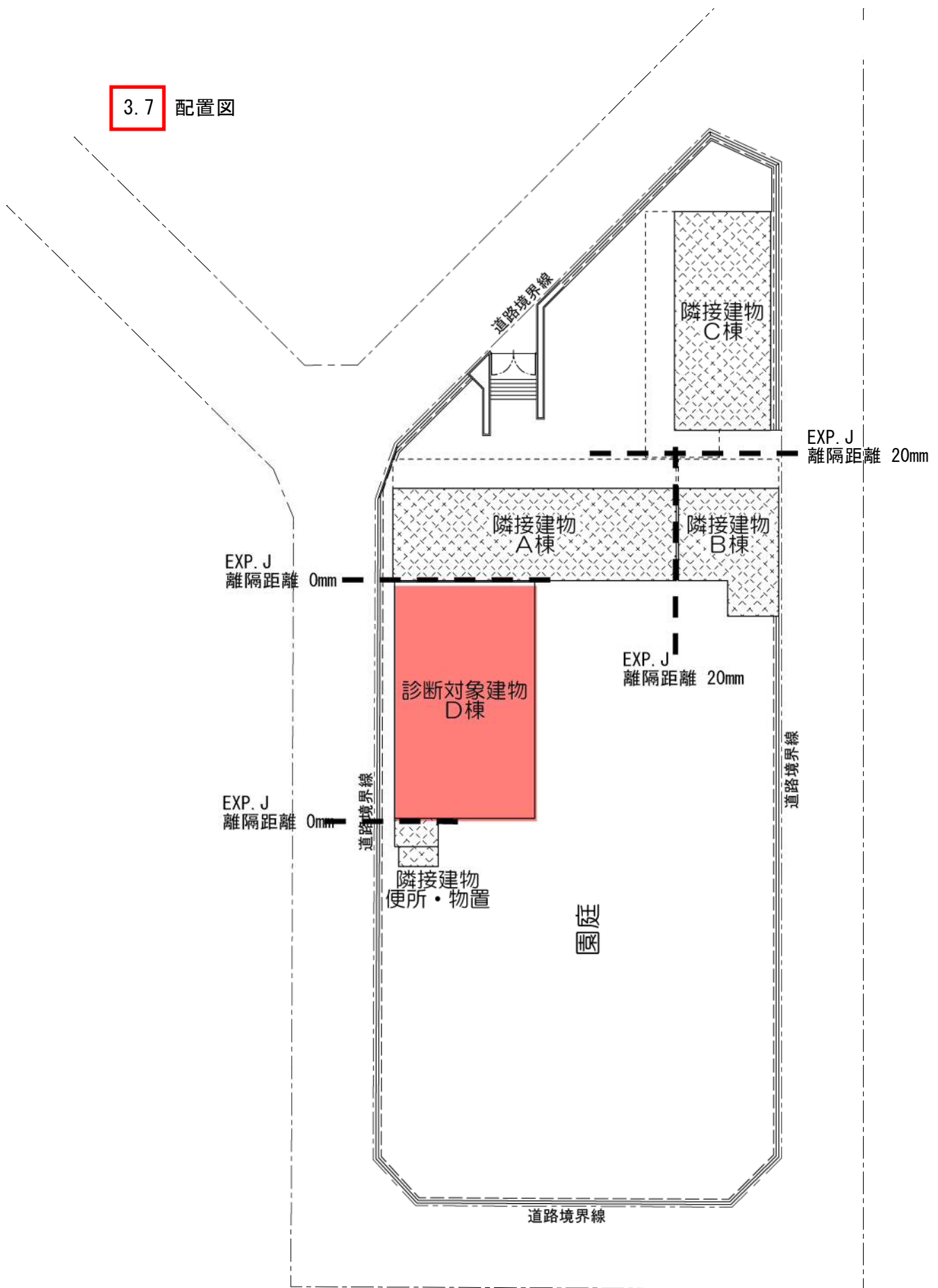
上段の診断結果は診断時評価書の診断結果を記載してください。

耐震改修結果内訳

(改修)

X方向 ※上段は診断結果、下段は改修結果を示す。										
	階	ΣW (kN)	Ai	Qu (kN)	Fi	Eo	Fes	I s	q	破壊形式
→ 正 加 力	1階	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇, 〇〇
		0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇, 〇〇
← 負 加 力	1階	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇, 〇〇
		0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇, 〇〇
Y方向 ※上段は診断結果、下段は改修結果を示す。										
	階	ΣW (kN)	Ai	Qu (kN)	Fi	Eo	Fes	I s	q	破壊形式
→ 正 加 力	1階	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇, 〇〇
		0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇, 〇〇
← 負 加 力	1階	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇, 〇〇
		0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇, 〇〇
									U=	0
									R _T =	0
									G=	0
									Z=	0
特記事項										
※決定した方向などを記述する。										
※その他重要事項										
判定基準は以下とする										
(1) Isが0.3未満又はqが0.5未満・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が高い。										
(2) (1)、(3)以外・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性がある。										
(3) IsがIso以上かつqが目標値以上・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が低い。										
ゾーニングで検討を行っている場合はゾーニング図を添付してください。										

3.7 配置図



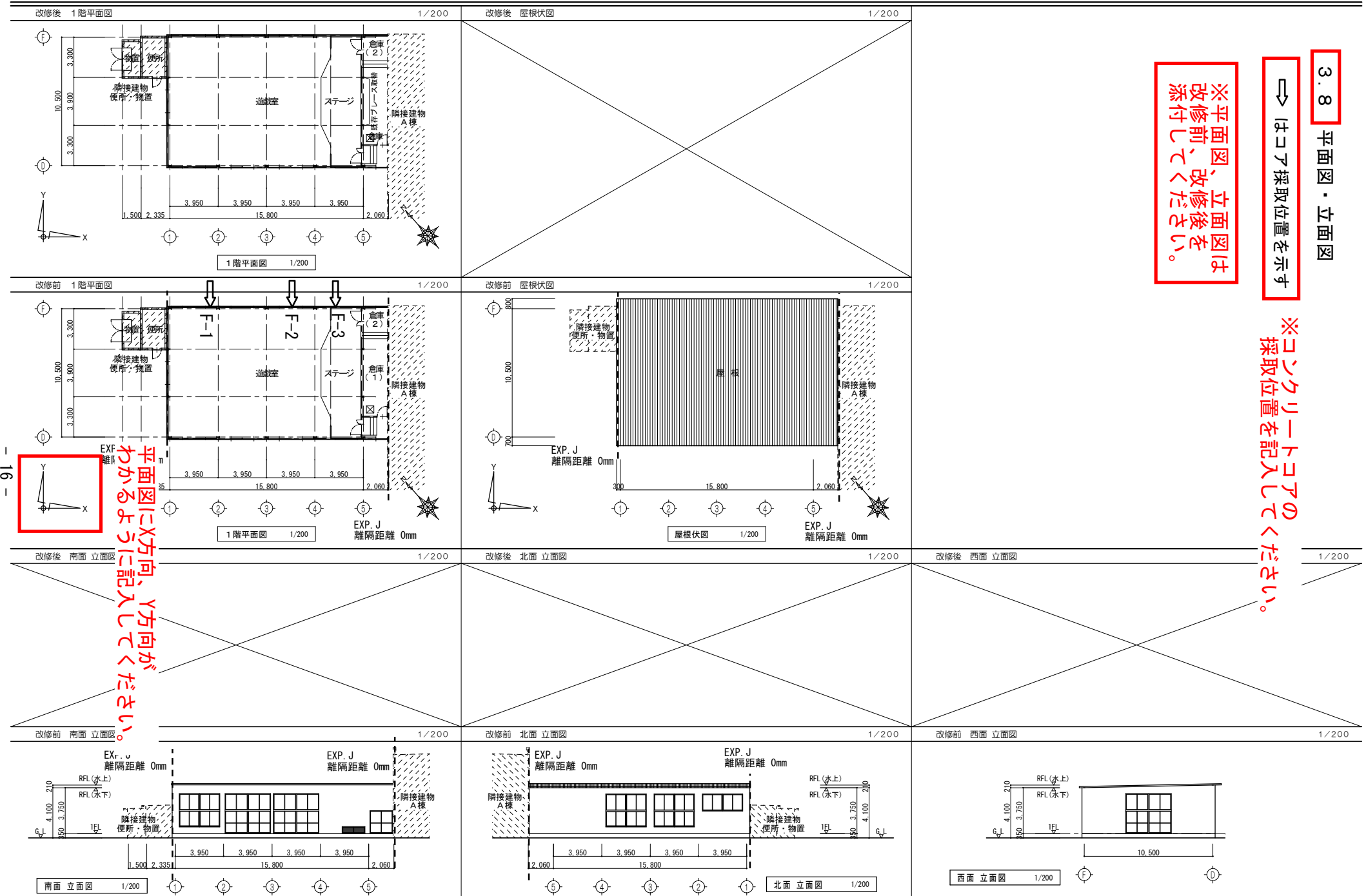
配置図 1/400

3.8 平面図・立面図

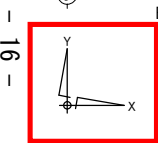
⇨ はコア採取位置を示す

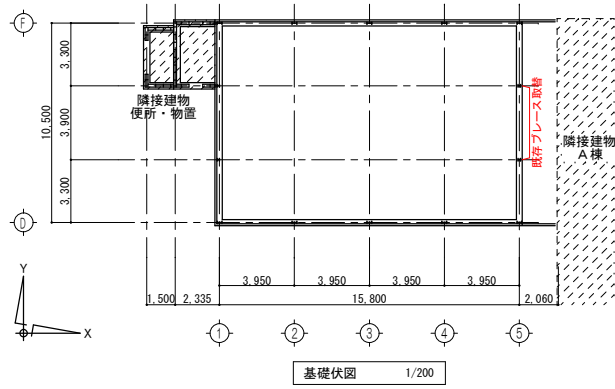
※平面図、立面図は改修前、改修後をい。添付してください。

※コンクリートコアの採取位置を記入してください。

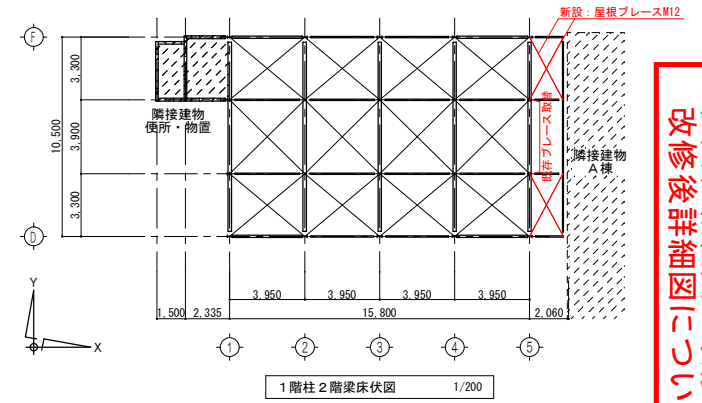


平面図にX方向、Y方向がわかるように記入してください。

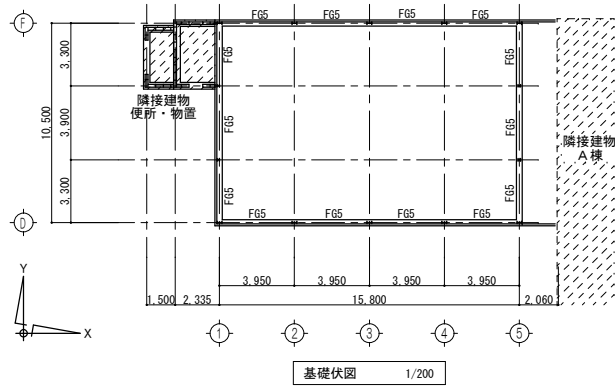




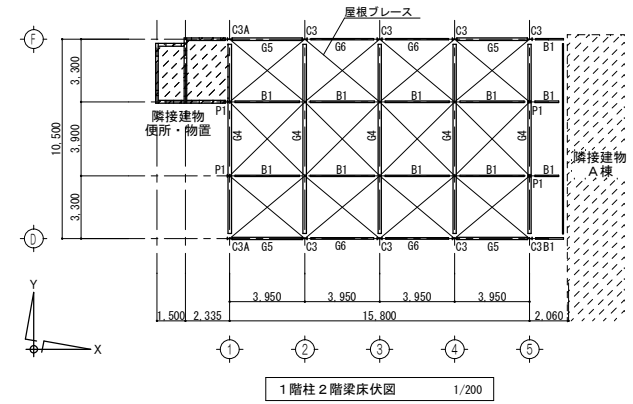
基礎伏図 1/200



1階柱2階梁床伏図 1/200



基礎伏図 1/200

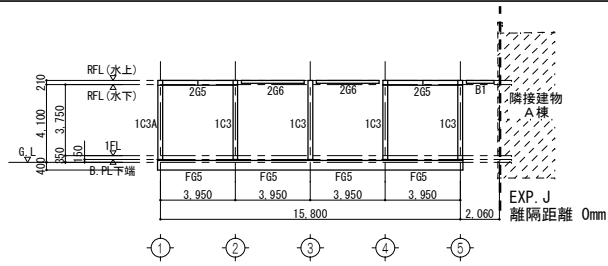


1階柱2階梁床伏図 1/200

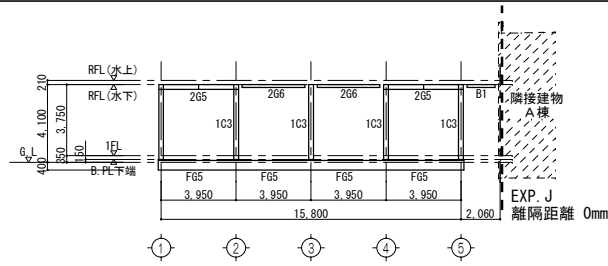
3.9 伏図・軸組図・改修後詳細図

※伏図、軸組図は改修前、改修後を添付していただき。改修後については報告書と同じものを添付していただき。

改修後 D通り軸組図 1/200	改修後 F通り軸組図 1/200
改修前 D通り軸組図 1/200	改修前 F通り軸組図 1/200

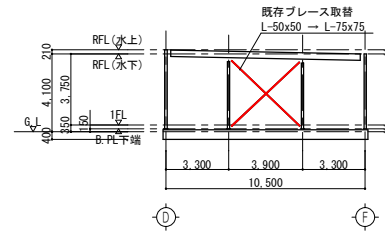


D通り軸組図 1/200



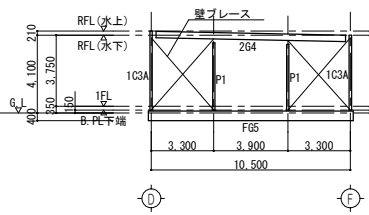
F通り軸組図 1/200

改修後 1通り軸組図 1/200	改修後 2通り軸組図 1/200	改修後 3通り軸組図 1/200	改修後 4通り軸組図 1/200	改修後 5通り軸組図 1/200
------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

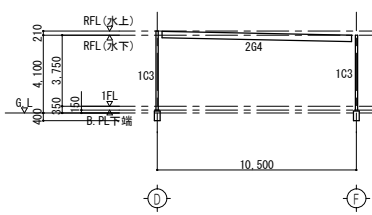


5通り軸組図 1/200

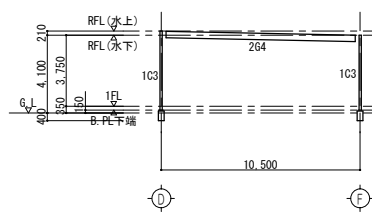
改修前 1通り軸組図 1/200	改修前 2通り軸組図 1/200	改修前 3通り軸組図 1/200	改修前 4通り軸組図 1/200	改修前 5通り軸組図 1/200
------------------	------------------	------------------	------------------	------------------



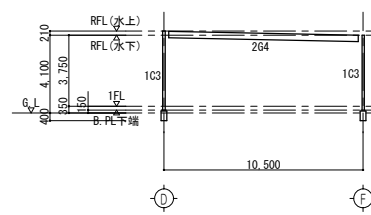
1通り軸組図 1/200



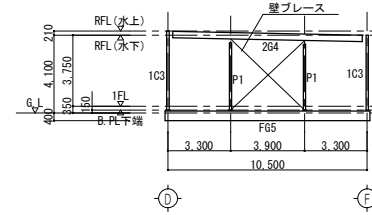
2通り軸組図 1/200



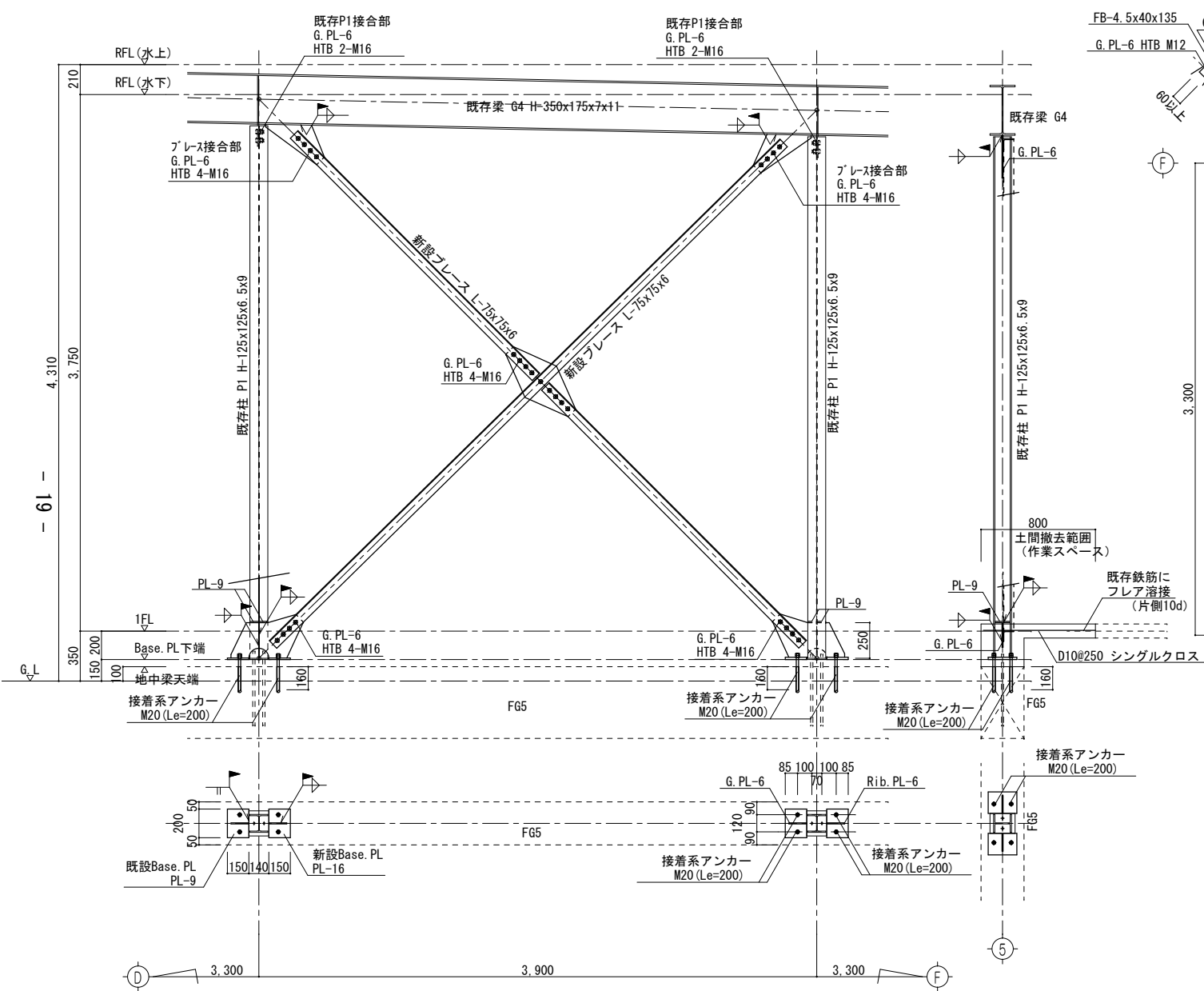
3通り軸組図 1/200



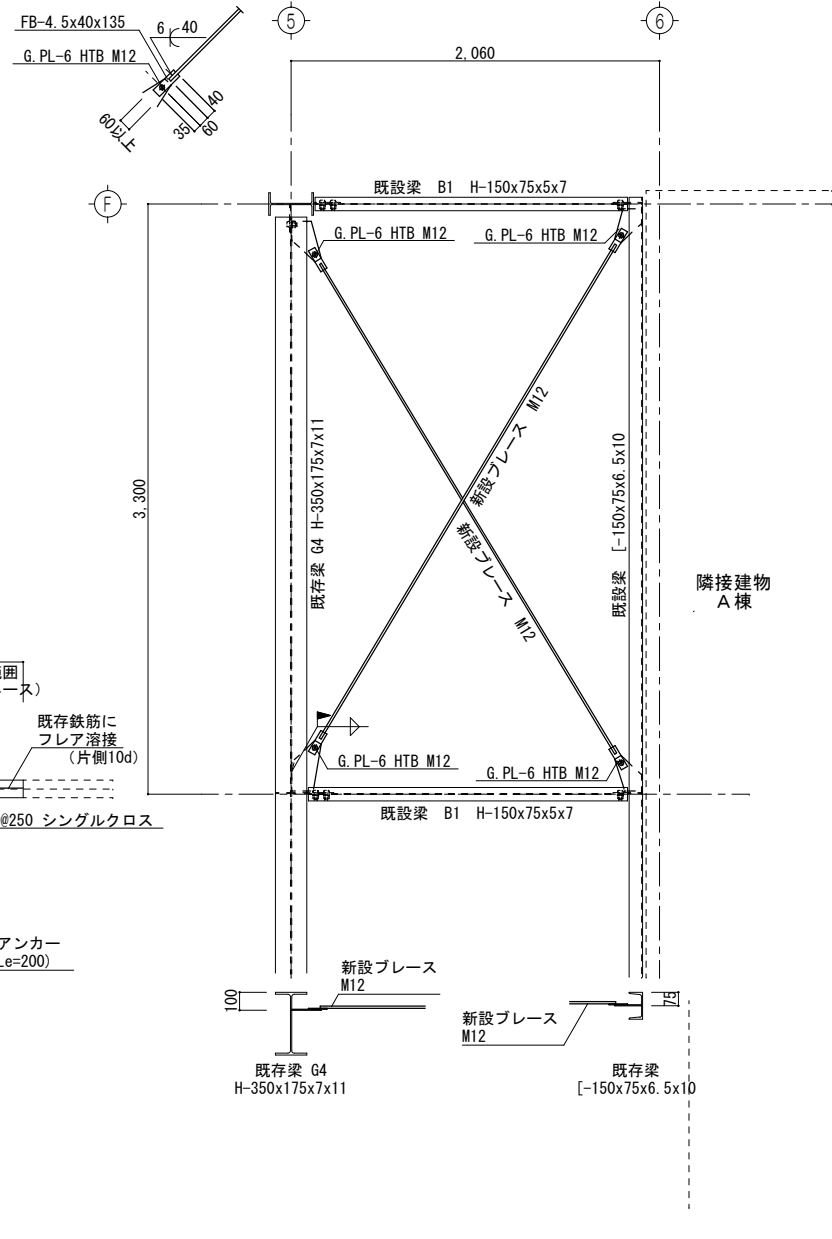
4通り軸組図 1/200



5通り軸組図 1/200



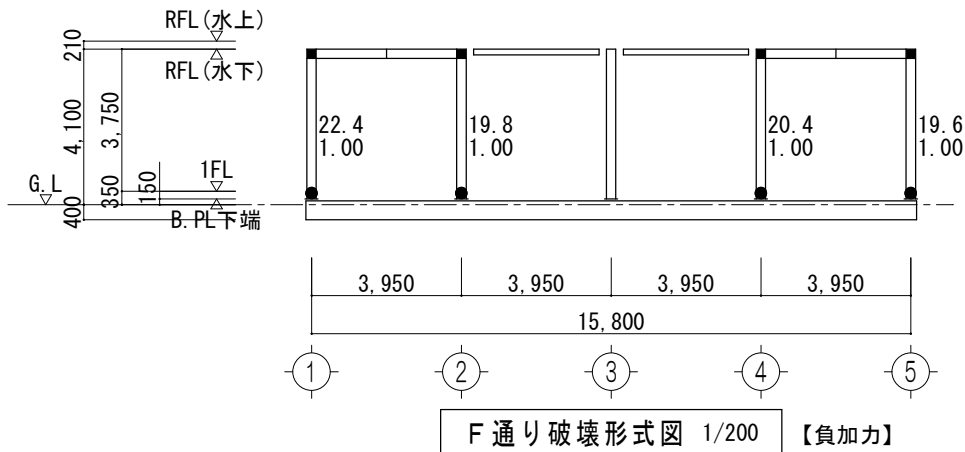
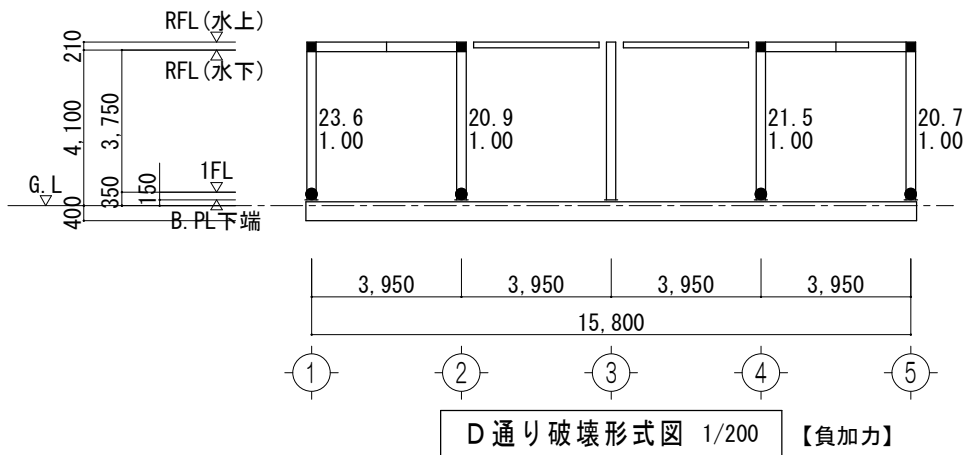
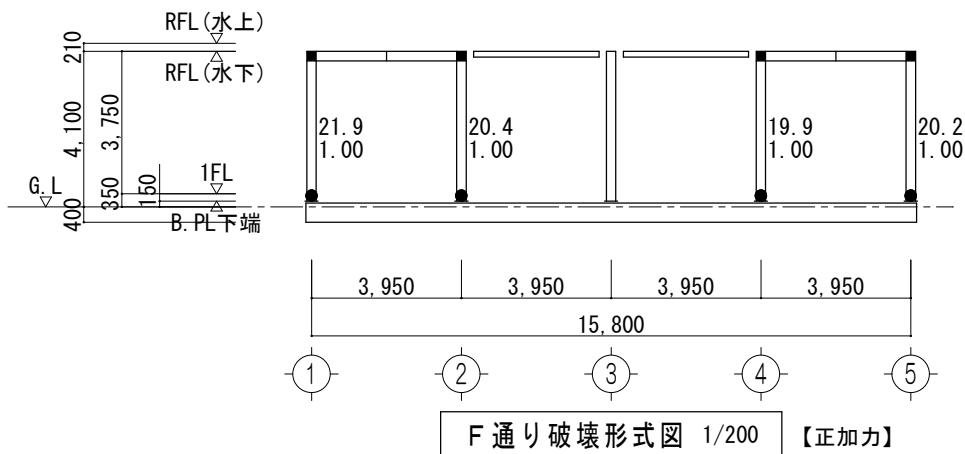
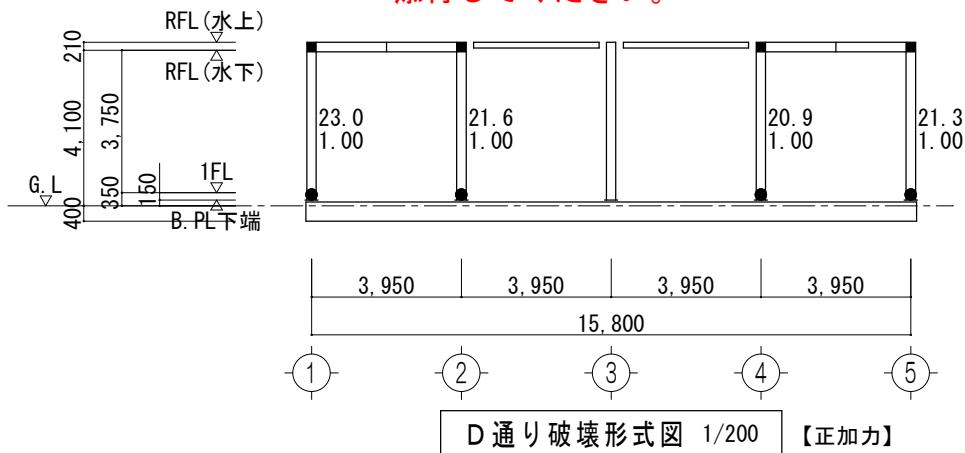
鉄骨詳細図 1/30 注記: M20は全ネジボルトとする。

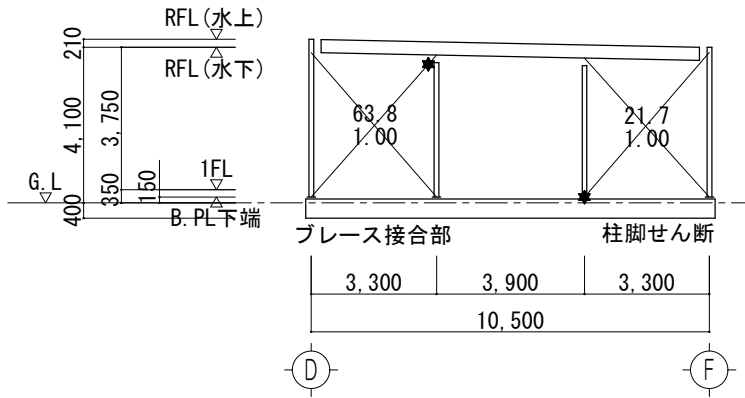


屋根面鉄骨詳細図 1/30

3.10 破壊形式図

破壊形式図は、改修後のものを添付してください。

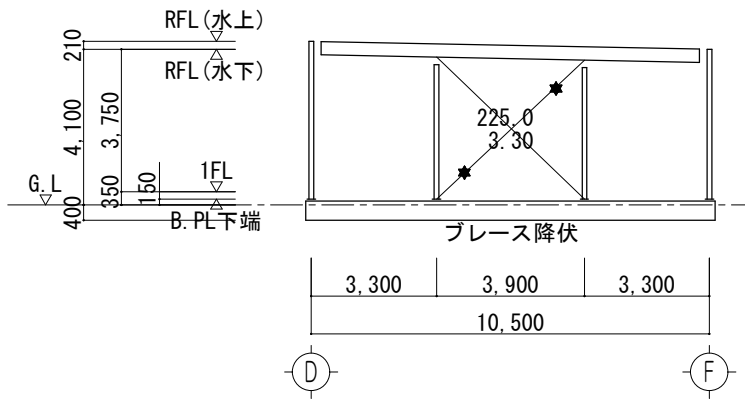




1 通り破壊形式図 1/200 【正加力】

破壊形式凡例
 上段 : Q_u (kN)
 下段 : F 値

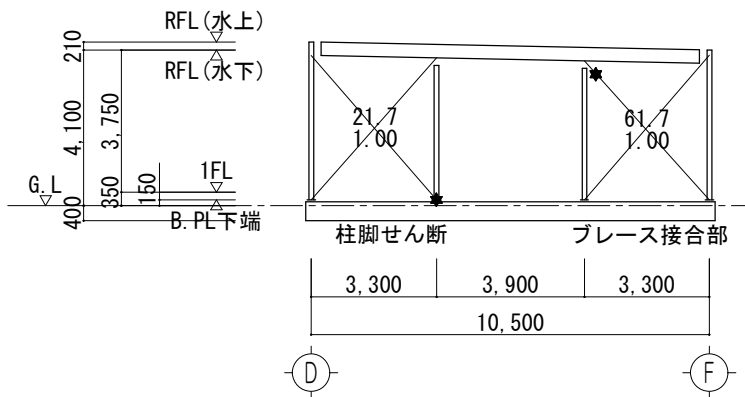
★ 耐力決定位置を示す



5 通り破壊形式図 1/200 【正加力】

破壊形式凡例
 上段 : Q_u (kN)
 下段 : F 値

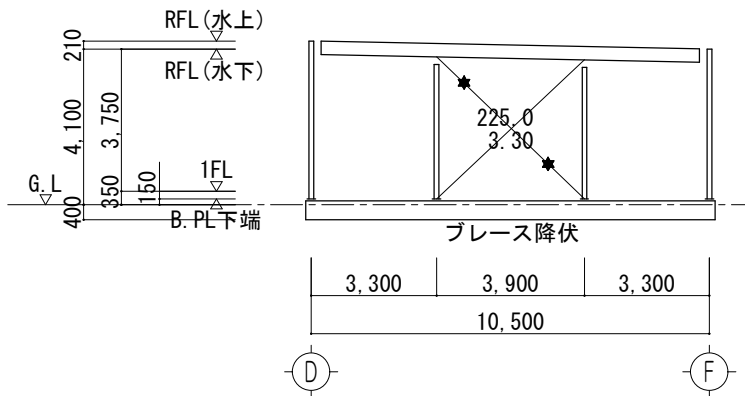
★ 耐力決定位置を示す



1 通り破壊形式図 1/200 【負加力】

破壊形式凡例
 上段 : Q_u (kN)
 下段 : F 値

★ 耐力決定位置を示す



5 通り破壊形式図 1/200 【負加力】

破壊形式凡例
 上段 : Q_u (kN)
 下段 : F 値

★ 耐力決定位置を示す

第〇〇〇-〇回 (一社)広島県建築士事務所協会建築物耐震診断等評価委員会 質疑回答書

No. 1

(評価委員会 ・ 小委員会)

○印は出席委員

評価委員					
委員長	荒木	○	副委員長	藤原	○
副委員長	貞末	○	委員	高西	○
委員	近藤		委員	金井	
委員	大田		委員	清水	○
委員	高松		委員	坂内	
委員	清水(斉)	○			

件名	〇〇〇〇〇 耐震改修業務	棟番号	〇〇	オブザーバー	〇〇	場所	建築サロン
日時	平成 〇 年 〇 月 〇 日	担当事務所	〇〇〇〇〇〇	説明者	〇〇	記録者	〇〇

番号	頁	質疑事項	回答	処置
1	I-9	・補強箇所と箇所数を記載してください。	・補強箇所と箇所数を記載します。	・補強箇所、箇所数を記載しました。(I-9)
2	I-10	・改修鉄筋の降伏点強度を見直してください。 ・高力ボルト強度を記載してください。 ・あと施工アンカーの仕様を確認してください。 ・VI-1の内容についても確認してください。	・改修部材の仕様等を見直します。	・改修材料の使用を全て見直しました。(I-10、VI-1)
3	I-11	・コンクリートブロックがありとなっていますが、場所はどこですか。	・コンクリートブロックはないので修正します。	・コンクリートブロックをなしに修正しました。また、鉄骨の調査がなしになっていたため、調査結果を記載しました。(I-11)
4	I-12	・隣接A棟と接続している梁についての方針を明確にしてください。	・隣接建物A棟との方針を記載します。	・A棟との方針を記載しました。また、屋根ブレースでの屋根面の荷重伝達の追加検討をしました。(I-12 VIII-11) ※8-7 耐震診断評価書を8-8としページをVIII-12からに変更します。
5	I-13	・診断時の特記に対する対応結果を記載してください。	・診断時の特記に対する対応を記載します。	・特記事項に記載しました。(I-13)
6	I-19	・既存FG5の断面リストを添付してください。 ・既存間柱P1の接合ボルトを記入してください。 ・補強BPL、リブPLと既設PLとの接合方法を明記してください。	・FG5のリストを添付します。 ・間柱のボルトを記載します。 ・溶接記号を記載します。	・FG5のリストを添付しました。(I-21-1) ・間柱のボルトを記入しました。(I-19) ・柱脚部に溶接記号を記入しました。(I-19)
7	VIII-5	・部材の軸耐力NT2の計算式と結果を確認してください。	・計算を見直します。	・計算式の係数を1.0に修正しました。(VIII-5)
8	VIII-6	・柱脚の検討において、補強ブレースの位置がBPL+200となっています。曲げによる付加軸力の検討をしてください。 また、せん断と引張耐力の組み合わせの検討を行ってください。 ・あと施工アンカーの材料強度を確認してください。	・質問No10にあわせ、柱脚の形状も含め、再検討します。 ・あと施工アンカーの材料強度を再確認します。	・柱脚の形状を見直し、ブレース降伏で決定するように再検討しました。同時に、あと施工アンカーの強度を見直しました。(VIII-6)

番号	頁	質 疑 事 項	回 答	処 置									
9	VIII-9 VIII-10	・補強ブレース耐力及び決定位置が正、負で異なっていますが、VII-6の破壊形式図を確認してください。	・破壊形式図を見直します。	・質問8,10により耐力等が変更になったため、破壊形式図、耐力図の見直しをしました。 (VII-6、VIII-9、10)									
10	I-19	・ブレースの引張耐力で決まるように設計の見直しをしてはどうでしょうか。また、柱脚の形状も含めて再検討してください。	・ブレースで決定するように柱脚などを見直します。	・ブレースの引張降伏で決まるように、柱脚の形状を見直しました。 (VIII-6、9、10 VII-6)									
11	I-12	・柱の耐力式を修正してください。	・柱の耐力式を修正します。	・柱の耐力式を修正しました。また、その他の部分(節点振り分け法や壁の耐力など)についても修正しました。 (I-12)									
12	I-13	・EXP.Jのネット対策についての記載方法を見直してください。	・コメントを見直します。	・ネット対策についてのコメントを見直しました。 (I-13)									
13		・診断時の議事録を添付してください。	・診断時の議事録を添付します。	・診断時の議事録を添付しました。 (VIII-25～)									
		柱脚の形状を見直し、ブレースの降伏で決定するように、再検討した結果、Y方向のIs値、q値の変更がありましたので、修正前と修正後を左記に示します。	修正前			➡	修正後						
			階	方向	Is値		q値	判定	階	方向	Is値	q値	判定
			1	X方向	0.74		3.01	両方満足	1	X方向	変更なし		
			1	Y方向	0.84	3.38	両方満足	1	Y方向	0.93	3.77	両方満足	
			※修正を行ったことで、Is値、q値が変更になった場合、 主な変更理由と修正前と修正後の、Is値、q値がわかるように記載してください。 また、Is値、q値に変更がない場合は、「Is値、q値に変更なし」と記載してください。										

